

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-058199

(43)Date of publication of application : 05.03.1996

51)Int.Cl.

B41J 32/00

B41J 17/32

21)Application number : 06-203823

(71)Applicant : MURATA MACH LTD

22)Date of filing : 29.08.1994

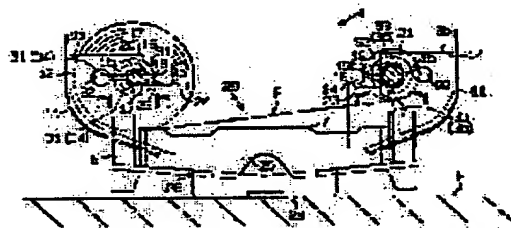
(72)Inventor : KURODA YOSHIMI  
KAWAMOTO MAKOTO

## 54) INK RIBBON CASSETTE

## 57)Abstract:

PURPOSE: To provide an ink ribbon cassette constituted so that the ink ribbon cassette having a roll set thereto in a correct direction can be correctly mounted on an apparatus main body in a correct direction.

CONSTITUTION: In an ink ribbon cassette 4 wherein the supply roll S1 and taking-up roll S2 of a single pass ink ribbon R are respectively supported by the support cap attaching holes 20, 21 of a housing 7 through first and second support caps 18, 19, the structure of the key 34 and key groove 31 of the supply roll S1 and the supply roll support cap 18 is made different from that of the key 35 and key groove 33 of the taking-up roll S2 and the taking-up roll support cap 19. Further, the diameter of the revolving shaft 18b of the first support cap 18 is made different from that of the revolving shaft 19b of the second support cap 19 and the attaching structures of the support cap attaching holes 20, 21 are made mutually different.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

24.12.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the  
examiner's decision of rejection or application  
converted registration]

[Date of final disposal for application]

<http://www1.ipdl.jpo.go.jp/PA1/result/detail/main/wAAAa29670DA408058199P1.htm>

10/3/2002

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-58199

(43) 公開日 平成8年(1996)3月5日

(51) Int.Cl.<sup>9</sup>

B 4 1 J 32/00

17/32

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願平6-203823

(22) 出願日

平成6年(1994)8月29日

(71) 出願人 000006297

村田機械株式会社

京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地

(72) 発明者 黒田 好美

京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機

械 株式会社本社工場内

(72) 発明者 川本 誠

京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機

械 株式会社本社工場内

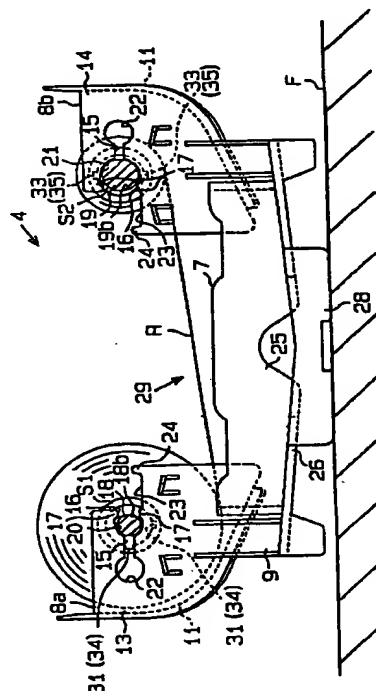
(74) 代理人 弁理士 恩田 博宣

(54) 【発明の名称】 インクリボン用カセット

(57) 【要約】

【目的】 正しい方向でロールをセットしたインクリボン用カセットを更に正しい方向で間違いなく装置本体に装填することのできるインクリボン用カセットを提供する。

【構成】 シングルパスインクリボンRの供給ロールS1と同リボンの巻取りロールS2とをそれぞれ第1、第2の支持キャップ18、19を介してハウジング7の支持キャップ取付孔20、21に支持したインクリボン用カセット4において、供給ロールS1と供給ロール用支持キャップ18とのキー34とキー溝31構造を巻取りロールS2と巻取りロール用支持キャップ19とのキー35とキー溝33構造とは異なる構造とするとともに、第1支持キャップ18の回動軸18bの径を、第2支持キャップ19の回動軸19bの径とは異なるものとし、各々の支持キャップ取付孔20、21との取付け構造を互いに異なる構造とした。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 感熱インクリボンの供給ロールととりボンの巻取りロールとをそれぞれ第1、第2の支持部材を介してハウジングの取付部に支持したインクリボン用力セットにおいて、供給ロールと第1支持部材との係合構造を巻取りロールと第2支持部材との係合構造とは異なる構造とするとともに、両支持部材の取付部への取付け構造を互いに異なる構造としたインクリボン用力セット。

【請求項2】 前記第1、第2の支持部材はロールの両端部に嵌着され、両者は嵌着面における凹凸関係において回動防止されるとともに、供給ロールと第1の支持部材及び巻取りロールと第2の支持部材との凹凸形成位置が互いに異なった係合構造とされている請求項1に記載のインクリボン用力セット。

【請求項3】 前記第1、第2の支持部材は両ロールに嵌着する本体と回動軸とを有しており、両支持部材の回動軸の径は互いに異なって対応する取付部とのみ取付け可能な取付け構造とした請求項1又は2に記載のインクリボン用力セット。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、感熱インクリボンを装着して印字装置内の印字位置に配設するためのインクリボン用力セットに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 感熱転写型印字装置では、感熱ヘッドにより感熱インクリボン上のインクを溶融し、用紙側に転写して印字を行うようになっている。感熱インクリボンは供給ロール及び巻取りロールに巻回されて両ロール間を走行するようになっており、両ロールはインクリボン用力セットのハウジング内にセットされて、インクリボン用力セットとともに装置本体内に装填されるようになっている。供給ロール及び巻取りロールの両端には支持キャップが装着され、計4つの支持キャップにて両ロールはハウジングの取付部に取り付けられるようになっている。そして、同力セットが装置本体に装着された状態で支持キャップに形成されたギア部が装置本体内の駆動ギアと噛合し、その結果駆動ギアから回転が伝達されて両ロールが回転させられるようになっている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、4つの支持キャップのギア部の形状はすべて同じではなく、ある支持キャップを異なるロールに嵌着してハウジングにセットした場合、装置本体のギアと噛合できない場合がある。その場合には、インクリボン用力セットを装置本体内に装填することができなくなってしまう。そのため、もし誤って支持キャップを装着して、両ロールをハウジングにセットしてしまった場合、使用者は装置本体への装着の段階で始めて支持キャップの装着間違いに気づく

わけであり、この段階で再び両ロールに支持キャップを正しく装着し直すこととなり面倒であった。

【0004】 また、ロールの前後を間違えてハウジングにセットしてしまった場合には、インクリボンの末端がリボン開始位置に来てしまうこととなる。この間違いは実際に印字を再開した後に分かることが多く、再び正しい方向にインクリボンをセットしなければならず面倒である。この場合、マルチパスインクリボン用力セットであれば、一旦装置本体から取り出し前後を入れ換えて装填し直せば足りるが、シングルパスインクリボン用力セットでは通常装置本体への装填方向が決まっているため前後の入れ換えはできない。従って、シングルパスインクリボン用力セットでは一旦両ロールをハウジングから取り外し、ロール自体の前後入れ換える必要があり非常に面倒である。更にロールを入れ換えるならば支持キャップも前後入れ換えなければギア部が装置本体の駆動ギアと噛合しなくなるため、結果として支持キャップもロールもすべて始めから装着し直さねばならず煩雑に過ぎるものがある。

【0005】 本発明は上記課題を一気に解決するためのものである。その目的は、正しい方向でロールをセットしたインクリボン用力セットを更に正しい方向で間違いなく装置本体に装填することのできるインクリボン用力セットを提供することにある。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 上記の課題を解決するために、請求項1の発明では、感熱インクリボンの供給ロールととりボンの巻取りロールとをそれぞれ第1、第2の支持部材を介してハウジングの取付部に支持したインクリボン用力セットにおいて、供給ロールと第1支持部材との係合構造を巻取りロールと第2支持部材との係合構造とは異なる構造とするとともに、両支持部材の取付部への取付け構造を互いに異なる構造としたことを要旨とする。

【0007】 請求項2の発明では、請求項1の発明のインクリボン用力セットにおいて、前記第1、第2の支持部材をロールの両端部に嵌着し、両者を嵌着面における凹凸関係において回動防止させるとともに、供給ロールと第1の支持部材及び巻取りロールと第2の支持部材との凹凸形成位置を互いに異なった係合構造としたことを要旨とする。また、請求項3の発明では、請求項1又は2の発明のインクリボン用力セットにおいて、前記第1、第2の支持部材は両ロールに嵌着する本体と回動軸とを有しており、両支持部材の回動軸の径は互いに異なって対応する取付部とのみ取付け可能な取付け構造としたことを要旨とする。

## 【0008】

【作用】 上記のように構成すると、請求項1の発明では、供給ロールと巻取りロールに対して支持部材を装着する際に、供給ロールと第1支持部材の係合構造と巻取

りロールと第 2 支持部材の係合構造とを異なる構造とし、ロールと支持部材の装着間違いをなくす。次いで、支持部材を装着したロールをハウジングの取付部に取り付ける際に、第 1 支持部材と第 2 支持部材の取付部との取付構造を互いに異なる構造とすれば、ロールのハウジングへの装着方向は常に一定となり、装着間違いはなくなる。

【0009】また、請求項 2 の発明では、請求項 1 の発明の作用の係合構造が支持部材とロールとの間の嵌着面における凹凸関係とされ、この凹凸関係により支持部材とロールとの間の空回りが防止される。また、請求項 3 の発明では、請求項 1 及び請求項 2 の発明の作用に加えて、回転軸の径を異なるものに形成しているので、ロールは従来と同様にスムーズに回転するとともに、取付部への取付けを間違えることもない。

#### 【0010】

【実施例】 以下、本発明のインクリボン用カセットケースをファクシミリ装置に応用した実施例について図 1～図 5 に基づいて説明する。図 4 に示すファクシミリ装置 1 は給紙カセット 2 a、2 b が 2 段に装着された機種であり下段の給紙カセット 2 b が別体として装着可能となっている。装置本体 3 内には図示しない記録部及び図示しない読取部が配設されている。また、記録部内にはインクリボン用カセット 4 が着脱可能に配設されている。装置本体 3 の上部には上部カバー 5 が配設されており、前記カセット 4 の着脱時に上方に回転して開放されるようになっている。

【0011】次に装置本体 3 内に装填されたインクリボン用カセット 4 について説明する。図 1 はインクリボン用カセット 4 を上下反転して水平面 F 上に載置された例を示し、この状態においてインクリボン R の交換が行われる。同カセット 4 はハウジング 7 と同ハウジング 7 内にセットされた供給ロール S 1 と巻取りロール S 2 とにより構成されている。そして、同カセット 4 をファクシミリ装置 1 内に装填する際にはインクリボン用カセット 4 を 180 度反転させ、前記上部カバー 5 を開放した状態でその開放部から装置本体 3 内に装填するようになっている。尚、以下インクリボン用カセット 4 の説明においては、図 1 における載置状態において左方を左側として右方を右側とする。また、上方を上側、下方を下側とする。

【0012】図 1 及び図 5 に示すように、ハウジング 7 は両ロール S 1、S 2 が収納される左右一対の本体フレーム 8 a、8 b と同本体フレーム 8 a、8 b 両端間にあつて両本体フレーム 8 a、8 b を所定間隔を開けて連結する支持フレーム 9 とにより構成されている。本体フレーム 8 a、8 b の外表面には記録紙 P が通過する際の案内をする、外方に膨らんだ曲面状の案内部 11 が形成されている。図 1 に示すように、左側の本体フレーム 8 a の案内部 11 の両端には供給ロール S 1 を保持するため

の一対の供給ロール用保持板 13 が形成されている。右側の本体フレーム 8 b の案内部 11 の両端には巻取りロール S 2 を保持するための一対の巻取りロール用保持板 14 が形成されている。両保持板 13、14 は案内部 11 と一体的に成形された板体とされている。尚、両保持板 13、14 はそれぞれ異なる色（例えば、供給ロール用保持板 13 を赤色とすれば巻取りロール用保持板 14 を青色とする如く）に着色されている。

【0013】図 1 に示すように、供給ロール用保持板 13 及び巻取りロール用保持板 14 には同カセット 4 の中央方向に向かって、すなわちインクリボン R の走行方向に沿う方向に向かって開口する、図 1 の状態において同カセット 4 の載置面 F に対して水平な取付溝 15 が形成されている。各取付溝 15 の開口部 16 の上下には係合突起 17 が突設されており、両ロール S 1、S 2 の両端の支持キャップ 18、19 を装着した際の抜け落ちが防止されている。開口部 16 に連続して取付部たる略円形状の支持キャップ取付け穴 20、21 が取付溝 15 内に形成されている。供給ロール用保持板 13 の支持キャップ取付け穴 20 は巻取りロール用保持板 14 の支持キャップ取付け穴 21 よりも小径とされている。

【0014】支持キャップ取付け穴 20、21 に連続して鍵穴状の拡開許容部 22 が形成されており、同拡開許容部 22 を形成した結果、取付溝 15 は上下に撓んで拡開し、又復帰するような弾性構造となっている。開口部 16 に隣接して支持キャップ 18、19 を仮置きする載置部 23 が形成されている。載置部 23 の端部には支持キャップ 18、19 の転がりを防止する転がり防止突起 24 が上方に向かって突設されている。

【0015】図 1 に示すように、断面略アングル状の支持フレーム 9 は支持フレーム本体 25 とひさし部 26 とにより構成されている。支持フレーム本体 25 はその両端にて両保持板 13、14 と一体とされている。ひさし部 26 にはスタンド部 28 が形成され、図 1 のように載置面 F に接してハウジング 7 を安定よく支持するとともにハウジング 7 を装置に装着・取り出しする際の把手としても機能するようになっている。一対の本体フレーム 8 及び一対の支持フレーム 9 とによりハウジング 7 中央には開放部 29 が形成されることとなり、同開放部 29 内をシングルパスインクリボン R が走行するようになっている。シングルパスインクリボン R は図示しない感熱ヘッドとプラテンローラとにより挟持され、感熱ヘッドによりシングルパスインクリボン R のインクが溶融されて、記録紙上に画情報が印字されるようになっている。

【0016】次にハウジング 7 に装着される供給ロール S 1 及び巻取りロール S 2 について説明する。図 2 に示すように供給ロール S 1 は両供給ロール用保持板 13 間に供給ロール用支持キャップ 18 によって懸架状態に支持されるようになっている。また、巻取りロール S 2 は両巻取りロール用保持板 14 間に巻取りロール用支持キ

キャップ19によって懸架状態に支持されるようになって  
いる。

【0017】供給ロールS1及び巻取りロールS2は紙  
製又は合成樹脂製の円筒体とされている。供給ロールS  
1の外表面にはシングルバスインクリボンRの基端側が  
固着されている。シングルバスインクリボンRは長く伸  
びた帯状のインクリボンシートであって、ベースフィ  
ルム上に熱溶融性インクが塗布されて構成されている。シ  
ングルバスインクリボンRは供給ロールS1の外周に巻  
回されており、先端が延出されて巻取りロールS2の外  
表面に固着されている。

【0018】供給ロールS1の両端部は供給ロール用支  
持キャップ18が嵌着される嵌着部30とされており、  
前記供給ロール用保持板13と同色に着色されている。  
同嵌着部30内周面には90度ずれた位置に2か所のキ  
ー溝31が形成されている。一方、巻取りロールS2の  
両端部は巻取りロール用支持キャップ19が嵌着される  
嵌着部32とされており、前記巻取りロール用保持板1  
4と同色に着色されている。同嵌着部32内周面には1  
80度ずれた位置に2か所のキー溝33が形成されてい  
る。

【0019】図3(a)に示すように、供給ロール用支  
持キャップ18は円筒状のキャップ本体18aと支持キ  
ャップ取付け穴20に嵌着される回動軸18b及び本体  
頭部に形成されたギア部18cにより構成されている。  
また図3(b)に示すように、巻取りロール用支持キ  
ャップ19は円筒状のキャップ本体19aと支持キャ  
ップ取付け穴21に嵌着される回動軸19b及び本体頭部  
に形成されたギア部19cとにより構成されている。供給  
ロール用支持キャップ18は前記供給ロール用保持板1  
3及び供給ロールの嵌着部30と同色に着色されてお  
り、巻取りロール用支持キャップ19は前記巻取りロー  
ル用保持板14及び巻取りロールの嵌着部32と同色に  
着色されている。前記支持キャップ取付け穴20、21  
に対応して供給ロール用支持キャップ18の回動軸18  
bは巻取りロール用支持キャップ19の回動軸19bよ  
りも小径とされている。

【0020】各支持キャップ18、19のキャップ本体  
18a、19aの基部にはキー34、35が形成されて  
いる。供給ロール用支持キャップ18のキー34は図3  
(a)のように90度ずれた2か所に形成されている。  
そして、供給ロールS1の嵌着部30に90度離れて形  
成された前記キー溝31と係合するようになってい  
る。また、図3(b)に示すように、巻取りロール用支持キ  
ャップ19のキー35は180度ずれた2か所に形成さ  
れている。そして、巻取りロールS2の180度離れて  
嵌着部32に形成された前記キー溝33と係合するよう  
になっている。

【0021】次に、本実施例のインクリボン用カセット  
4の作用について説明する。まず、図2に示すように、

供給ロール用支持キャップ18を供給ロールS1の嵌着  
部30に嵌着し、巻取りロール用支持キャップ19を巻  
取りロールS2の嵌着部32に嵌着する。供給ロール用  
支持キャップ18と供給ロールS1の嵌着部30、及び  
巻取りロール用支持キャップ19と巻取りロールS2の  
嵌着部32とは同色であるため、その色を目安とする。  
この場合、支持キャップ18、19が所定の嵌着部3  
0、32に嵌着されず、異なる嵌着部30、32に嵌着  
されようとした場合にはキャップ18、19のキー3  
4、35はキー溝31、33と係合はできない。例え  
ば、供給ロール用支持キャップ18のキー34は巻取り  
ロールS2の嵌着部32のキー溝33とは位置がずれて  
いるため、供給ロール用支持キャップ18は巻取りロー  
ルS2に嵌着することができなくなっている。

【0022】キー溝31、33とキー34、35とを係  
合させ、各支持キャップ18、19が両ロールS1、S  
2の嵌着部30、32に嵌着した状態において、この両  
ロールS1、S2の支持キャップ18、19を両保持板  
13、14に形成された載置部22に一旦載置する。こ  
こに、各保持板13、14と同色の支持キャップ18、  
19を載置するようにする。次いで、各支持キャップ1  
8、19を取付溝15の開口部16に両ロールS1、S  
2を転がしながら押しつけていく。すると、各支持キ  
ャップ18、19の回動軸18b、19bは開口部16の  
係合突起17を押圧することとなり、取付溝15は拡開  
許容部22の作用により拡開が許容され、回動軸18  
b、19bは支持キャップ取付け穴20、21に嵌挿され  
る。連結部18c、19cが支持キャップ取付け穴20、  
21に嵌着されると同時に取付溝15は拡開状態から再  
び原位置に復帰し、支持キャップ18、19が取付溝1  
5にセットされる。

【0023】この場合、供給ロールS1と巻取りロー  
ルS2とを取り違えても両ロールS1、S2をハウジング  
7にセットすることはできない。例えば巻取りロールS  
2を供給ロール用保持板13間に懸架しようとしても、  
巻取りロール用支持キャップ19の回動軸19bは同保  
持板13の支持キャップ取付け穴20の径よりも大きい  
ため嵌挿できない。また、同様に供給ロールS1の供給  
ロール用支持キャップ18の回動軸18bは巻取りロー  
ル用保持板14の支持キャップ取付け穴21の径より小さ  
く開口部16から簡単に抜け落ちてしまうため、供給ロー  
ルS1を巻取りロール用保持板14間に懸架することは  
できない。

【0024】ハウジング7内に両ロールS1、S2をセ  
ットした後、このインクリボン用カセット4を上下方向  
に180度反転し、図5に示すように装置本体3内のフ  
レーム36に懸架されるように上方から装填する。

【0025】次に、両ロールS1、S2を交換のために  
取り外す場合には、装置本体3から同カセット4を取り  
出した後、反転し、今とは逆に支持キャップ取付け穴2

0, 21に嵌着された各支持キャップ18, 19を両ロールS1, S2のセット時とは逆方向に取付溝15の開口部16に押しつけていく。すると、各支持キャップ18, 19の回動軸18b, 19bは開口部16の係合突起17を押圧し、取付溝15は再び拡開される。そして回動軸18b, 19bは開口部16より抜け出、再び載置部22上に仮置きされることとなる。

【0026】以上のように構成することで次のような効果を奏する。

(1) 供給ロール用支持キャップ18は供給ロールS1の嵌着部30にのみ嵌着され、巻取りロール用支持キャップ19は巻取りロールS2の嵌着部32にのみ嵌着されるようになっている。そして、供給ロール用支持キャップ18は供給ロール用保持板13間にのみ懸架でき、巻取りロール用支持キャップ19は巻取りロール用保持板14にのみ懸架できるようになっている。すなわち、新たなシングルバスインクリボンRを装着する場合において、支持キャップ18, 19や保持板13, 14の係合関係から正しく両ロールS1, S2がハウジング7にセットされるパターンは1種類だけとなる。従って、間違っただけで両ロールS1, S2がハウジング7にセットされることは全くなくなる。

【0027】(2) 供給ロールS1の嵌着部30と供給ロール用支持キャップ18と供給ロール用保持板13とは同色に着色されている。また巻取りロールS2の嵌着部32と巻取りロール用支持キャップ19と巻取りロール用保持板14も同色に着色されている。従って、色が揃うように組み合わせれば両ロールS1, S2がハウジング7に正しくセットされることとなり、誤ったパターンで組み合わせる間違いが少なくなる。

【0028】(3) 両ロールS1, S2の嵌着部30, 32は同径であり、また両支持キャップ18, 19のキャップ本体18a, 19aも同形である。すなわち、キー溝31, 33とキー34, 35の形成位置の違いだけで、支持キャップ18, 19の嵌着間違いが防止されており、格別両ロールS1, S2の径を変更して設計する必要はない。また、キー溝31, 33とキー34, 35は支持キャップ18, 19の嵌着間違いを防止するとともに、支持キャップ18, 19が両ロールS1, S2の嵌着部30, 32に嵌着された状態で空回りするのを防止する役割も果たす。

【0029】(4) 供給ロールS1の両嵌着部30には同形状の2つの供給ロール用支持キャップ18が嵌着され、巻取りロールS2の両嵌着部32には同形状の2つの巻取りロール用支持キャップ19が嵌着されている。すなわち、4か所の嵌着部30, 34に対して2種類の支持キャップのみで足りることとなり、4種類或いは3種類の支持キャップを用意する必要がない。

【0030】(5) ロールの前後を間違えてハウジングにセットしてしまった場合（つまり支持キャップ自体前

後間違えてロールに嵌着してしまった場合）には、インクリボンの終端がリボン開始位置に来てしまうこととなる。この場合、マルチバスインクリボン用力セットであれば、一旦装置本体から取り出し前後を入れ換えて装填し直せば足りるが、シングルバスインクリボン用力セットでは通常装置本体への装填方向が決まっているため前後の入れ換えはできない。従って、シングルバスインクリボン用力セットにおいて正しくロールをセットし直すにはロールを同力セットから取り外し、ロールから支持キャップを抜き、支持キャップ、ロールとも正しい対応関係に装着し直さねばならない。

【0031】しかし、本実施例ではキー溝31, 33と対応するキー34, 35により支持キャップ18, 19を嵌着する際の嵌着間違いをなくし、保持板13, 14にセットする際には回動軸18b, 19bの径を変えてセット間違いをなくしたため、シングルバスインクリボン用力セットで生じる上記のような問題が解消された。

【0032】以上、本発明の実施例について説明したが、本発明は上記実施例に限定されることはなく、次のように変更して実施することも可能である。

①上記実施例では供給ロール用支持キャップ18と巻取りロール用支持キャップ19のキャップ本体18a, 19aの径は同じで、キー溝31, 33とキー34, 35の形成位置の違いで、支持キャップ18, 19の嵌着間違いを防止していた。しかし、キー溝31, 33とキー34, 35を使わずにキャップ本体18a, 19a自体の形状を変更し、対応する形状の嵌着部30, 32を両ロールS1, S2に形成するようにしてもよい。例えば、一方の支持キャップ18の断面形状を四角形とし、他方の支持キャップ18の断面形状を六角形とする如くである。とにかく支持キャップ18, 19とそれらに対応する嵌着部30, 32形状を異なるものにすれば、支持キャップ18, 19の嵌着間違いを防止することが可能となる。

【0033】また、キー溝31, 33とキー34, 35の形成位置は90度と180度以外の位置でも勿論かまわない。

②上記実施例では支持キャップ18, 19の回動軸18b, 19bはインクリボン用力セット4の装填方向に対して横方向に開口された開口部16から支持キャップ取付穴20, 21に嵌挿されていた。しかし、このように開口部16が横方向にあるもの以外であっても、本発明を応用することは自由である。

【0034】また、上記実施例ではインクリボンとしてシングルバスインクリボンRを使用していたが、勿論マルチバスインクリボンを使用することも可能である。但し、この場合はインクリボンの終端がリボン開始位置に来ないように最初にインクリボン用力セット4を装置本体3に装填する場合に、装填の向きを逆に装填しないように注意する必要がある。

【0035】その他本発明は、ファクシミリ装置1の代わりに複写機やプリンター等に応用することも可能である等、その主旨を逸脱しない範囲において変更して実施することは自由である。

【0036】付記

また、以上の実施例によって把握されるその他の技術的思想について、その効果とともに以下に記載する。

(1) 請求項2又は3の発明の構成に加え、インクリボン用カセットはシングルパスインクリボン用とされ、同カセットのハウジングには装填方向を間違えないための装填方向指示手段(案内凹部)を形成すること。このようにすれば、シングルパスインクリボン用カセットの装置本体への装填向きを間違えることがない。

(2) 請求項1乃至3の発明の構成に加え、第1の支持部材と供給ロールに形成された第1の支持部材用嵌着部と供給ロール取り付け部とを同色に着色し、第2の支持部材と巻取りロールに形成された第2の支持部材用嵌着部と巻取りロール取り付け部とを前記とは別の同色に着色するようにした。このようにすれば、色が揃うように組み合わせていけば両ロールがハウジング7に正しくセットされることとなり、誤ったパターンで組み合わせる間違いが少なくなる。

【0037】

【発明の効果】 以上詳述したように、請求項1乃至3の発明のインクリボン用カセットによれば、新たなインクリボンを装着する場合において、支持部材や取付部の係合関係から正しく両ロールがハウジングにセットされるパターンは1種類だけとなる。従って、両ロールが前

後方向を間違えてハウジングにセットされることは全くなくなる。また更に加えて請求項2の発明においては、ロールに対して第1及び第2の支持部材の取付け間違いがなくなると同時に、嵌着面における凹凸関係により支持部材の空回りがなくなる。

【0038】更に加えて、請求項3ではロールは従来と同様にスムーズに回転することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明のインクリボン用カセットの上下を反転して載置した状態を説明する正面図である。

【図2】 同じ実施例において供給ロールと巻取りロールを説明する分解斜視図である。

【図3】 同じ実施例において支持キャップを説明した側面図であり、(a)は供給ロール用支持キャップであり(b)は巻取り用支持キャップである。

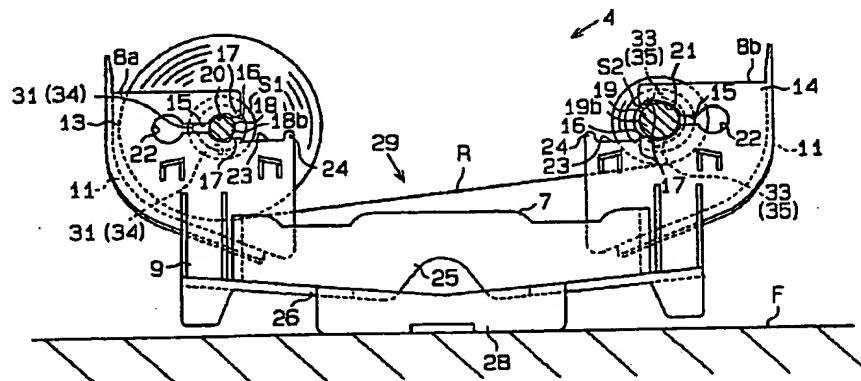
【図4】 同じ実施例のインクリボン用カセットを装填したファクシミリ装置の正面図である。

【図5】 同じ実施例においてインクリボン用カセットを装填する状態を説明する斜視図である。

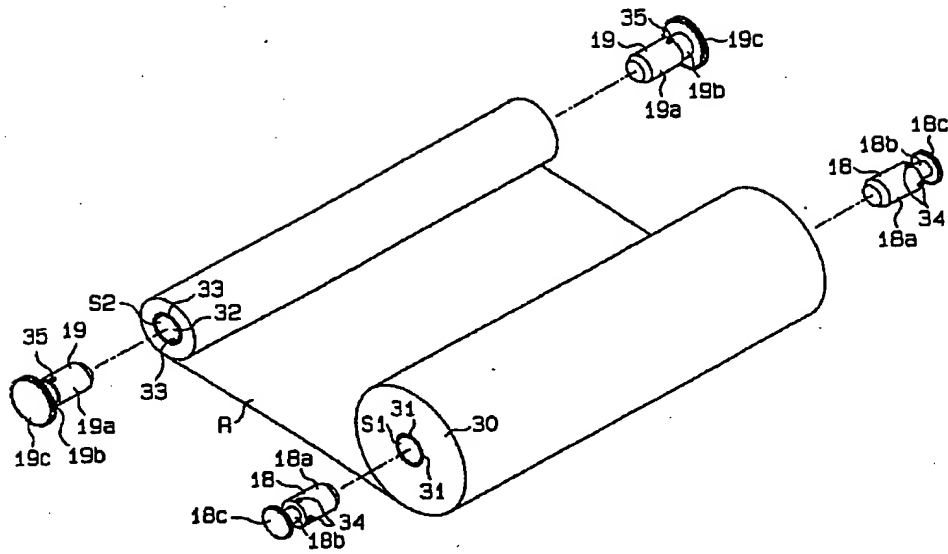
【符号の説明】

4…インクリボン用カセット、7…ハウジング、16…開口部、18…第1の支持部材たる供給ロール用支持キャップ、19…第2の支持部材たる巻取りロール用支持キャップ、18b…回転軸、20…取付部たる支持キャップ取付穴、31、33…係合構造たるキー溝、34、35…係合構造たるキー、S1…供給ロール、S2…巻取りロール、R…感熱インクリボンたるシングルパスインクリボン。

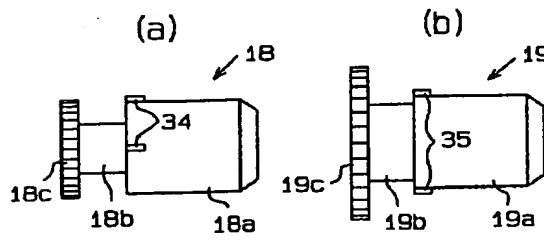
【図1】



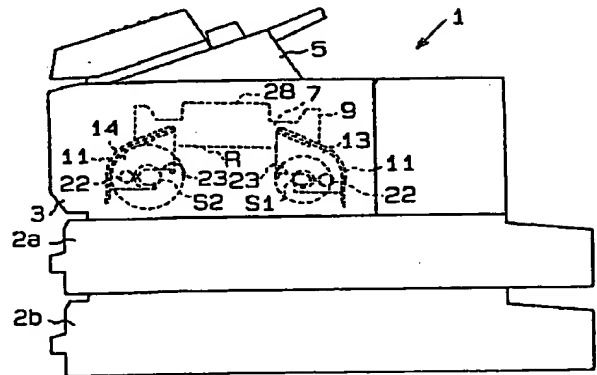
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

